

【富士宮市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

富士宮市では、こどもたちが予測困難な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するために必要な資質・能力を確実に育むことを目指し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を図ってきた。今後は、手軽に回答を得られるデジタル時代だからこそ、人間中心の発想で生成AI等を使いこなしていくことが求められる。そのためにも、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力といった「学習の基盤となる資質・能力」が一層重要となるという認識に立ち、デジタルとリアルのバランスをとりながら資質・能力の育成に取り組んでいく。そこで、こどもたちが1人1台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために、具体的に以下の姿を目指していく。

- ・こどもが自身の興味や関心に応じ、1人1台端末を活用して主体的に学び、適切な場面で自らの学びを振り返り、自己調整しながら資質・能力を身に付けていく、個別最適な学びの姿。
- ・こどもが授業支援ツール等を活用して、自身の学習資産を蓄積させたり、その資産を振り返ったりすることを通して、思考力・判断力・表現力等を高め、課題解決する姿。
- ・こどもたちが、異なる価値観を持つ多様な他者と、当事者意識を持って対話を行うことを通して、問題を解決・発見し、新たな考えを生み出す協働的な学びの姿。
- ・こどもたちが、授業支援ツール等のクラウドファイルを活用して、共同編集したり意見交流したりすることを通して、個別最適な学びと協働的な学びの往還により、学びを深める姿。
- ・こどもがデジタルとリアルのそれぞれのよさを実感し、自分に適した学び方を身に付けようとする姿。

このように、1人1台端末を効果的に活用しながら、こどもたちの可能性を最大限に引き出し、多様なこどもたちが誰一人取り残されることなく、確かな学力が育まれる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、学びの伴走者として、ICTの効果的な活用方法を追求し、授業改善を図っていくことを目指す。また、こどもたちが持続可能な社会の創り手となることを目指します。

2 GIGA第1期の総括

(1) 「第2期富士宮市教育情報化推進基本計画」の検証結果

富士宮市では、「第2期富士宮市教育情報化推進基本計画」を令和3年に策定し、以下の項目で推移を検証している。その内容と結果は以下の通りである。

ア ICT 活用による指導手法の多様化を生かした学びの質の改善

① ICT を使って、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善している。			
達成率	R 3	R 4	R 5
	88.3%	94.2%	90.9%
② 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考えに基づいて、ICT やオンライン環境を活用した学習形態の工夫をしている。			
達成率	R 3	R 4	R 5
	77.9%	92.3%	84.4%
③ ICT を活用した家庭学習に、適切なルールの指導とともに進めている。			
達成率	R 3	R 4	R 5
	67.6%	81.5%	67.6%

イ 複雑化・多様化する現代社会に必要な情報活用能力の育成

① 授業や学校生活の中で、1人1台 PC の基本的な操作ができる。			
達成率	R 3	R 4	R 5
	90.3%	92.5%	93.6%
② 1人1台 PC を使って、必要な情報を集めたり、自分の意見をまとめて表現したりしながら問題を解決している。			
達成率	R 3	R 4	R 5
	85.1%	88.1%	91.0%
③ プログラミングの良さがわかり、授業や学校生活で使っている。			
達成率	R 3	R 4	R 5
	48.4%	48.2%	53.9%
④ 情報モラルについて考えながらパソコンを適切に使っている。			
達成率	R 3	R 4	R 5
	93.8%	93.3%	93.6%

ウ 効果的で安全に ICT を活用するための環境整備

- ① 教育委員会は、GIGA スクール構想に基づき、1人1台端末を整備し、それを支える機器や無線・インターネット環境を構築する。
- ② 教育委員会は、学習者間の対話や考えの共有を実現するための、指導者用・学習者用デジタル教科書を整備する。
- ③ 教育委員会は、合理的配慮のための特別支援教育での ICT の活用を研究し、公正で個別最適な学びのための ICT 環境を整備する。

本市においては、令和3年に1人1台端末が配付されたことで、実質的な1人1台端末の活用が開始された。その後もより安全・安心で学びを止めない環境の整備に努め、教室だけに限らず、特別教室や体育館、災害時にも Wi-Fi が使用できる環境が実現した。また、富士宮市 ICT 活用推進委員会を設置し、ICT を効果的に活用する授業改善を推進し、さらには ICT の活用方法について、市 ICT 活用推進委員会主催の研修

会を実施して教員の情報活用指導能力の向上を図ってきた。学習者用デジタル教科書は「国語・社会・算数（数学）・理科・英語」を導入し、これにともない、デジタルドリル教材や授業支援ソフト等も導入し、各校において積極的な活用が進んでいる。特別支援教育の観点からみると、デジタル教材に含まれている、文字の拡大やふりがな、読み上げ、音声入力等の機能は、学びに様々な困難さを感じている子どもたちの個別最適な学びを実現し、学びに向かう力の育成にも ICT の活用は効果を発揮している。加えて、翻訳機能やリモート機能を活用することで、外国籍の子どもたちの学びも支えている。さらに今日、大きな教育課題となっている不登校児童生徒への学びの保障の観点からも、1人1台端末の多機能を活用して学習に参加できるようにするなど、多様な子どもたちのニーズに合わせて「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の実現が進んでいる。

(2) 成果

ア 児童生徒の ICT 活用意識の向上

1人1台端末の環境が整備され、教室内にとどまらず、特別活動や校外活動、家庭学習等、さまざまな場面で ICT を活用する機会が増えている。その結果、子どもたち自身が ICT の利便性を実感し、学習における活用意識が高まるとともに、活用場面も多様化し、拡大した。また、教師が家庭学習と連携した単元構想を計画することで、子どもたちは端末を家庭に持ち帰って積極的に活用しながら授業の内容をさらに深く調べてみたり、授業で友達と協働しながらよりよい考えを生み出したりするなど、1人1台端末を上手に使いながら主体的に学ぶことができるようになりつつある。探究的な学びの場面においても、資料の収集や分析、インタビューや発表資料の作成等、ICT が積極的に活用されている。さらに、小小連携や小中接続、専門家との交流などリモート学習を通して、子どもたちの主体的対話的で深い学びの実現が図られている。

イ 児童生徒の ICT 活用能力の向上

富士宮市が作成した「育てたい情報活用能力の体系表」に基づき、小学1年生から中学3年生までの系統的な目標が明確化されたことで、各校で計画的に ICT 活用能力の育成が進められている。また、1人1台端末にデジタルドリルやタイピング、プログラミング、情報モラルなどの学習ソフトを導入し、子どもたちが自ら取り組める環境を整えたことで、ICT 活用能力が着実に高まった。さらに、子どもたちは自らの学びに合わせて効果的にクラウドツールを活用できるようになり、目的や必要に応じ、自分に合った学びをデザインできる姿が増えている。

ウ 教職員の ICT 活用指導能力の向上

ICT 活用推進委員会が中心となり、継続的に教職員の ICT を活用した授業改善のための研修を行い、授業における汎用ツールの使用方法、デジタルドリルやデジタル教科書などの導入ソフトの使用法などを習得し、ICT 活用指導能力を高めている。また、令和4・5年度は「ICT を活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」、令和5・6年度は「デジタルとリアルの組合せによる『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的充実」との研究テーマのもと、市指定

研究指定校の実践事例を、クラウド環境を通して市内教職員で共有し、全市における ICT 活用事例を積み重ねている。

エ 校務 DX 推進による教職員の業務軽減

令和3年に校務支援システムを導入し、令和5年度には校務クラウド環境を構築し、学習系と校務系ネットワークの連携や、校務のロケーションフリー化が実現し、校務 DX が推進されている。さらに、令和6年度は生成 AI を活用した業務軽減についても研修を行った。校務環境の改善とともに教職員の知識技能の向上が図られ、より一層働き方改革が推進されている。

(3) 課題

ア 児童生徒の活用状況から

端末を正しく利活用しないことにより、友達同士のトラブルや端末の故障や破損が見られる。該当する子どもへ指導するなどの事後対応を大切にしつつも、やはり、予防対策や情報モラル意識の向上を重要ととらえ、市や民間企業が主催する出前講座等を通して情報モラル教育を一層推進していく。また、端末が重いことで、低学年児童には持ち運ぶ際の負担が大きいという課題については、教科書類の持ち帰りを減らしたり、家庭に端末を持ち帰る日を限定したりするなどの工夫をしている。

イ 教職員の活用状況から

デジタル教科書や導入ソフトが多様化し、年次更新やアカウント管理、転出入による手続き、端末の不具合についての対応等、ICT を円滑に活用するための業務が複雑化し、教員、特に各校の ICT 担当教員が負担を感じている。そのため、「Q&A サイト」を設けてトラブル案件や解決方法を情報共有できるようにしている。また、市の年次更新マニュアルを作成し、データ共有したことで、校内で計画的かつ複数人で対応できるようにしている。

3 1人1台利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用に向けた目標

富士宮市は、ICT 活用推進委員会や市内全体研修会（情報教育部）が中心となり、ICT の活用方法や授業づくりに係る研修を定期的で開催している。その研修内容を各校の情報教育担当が校内研修で伝達したり演習したりすることで、富士宮市教職員の研修体制が組織化されている。これらの研修を継続して行うことにより、ICT を効果的に活用する授業改善が図られ、子どもたちの ICT 活用機会が確実に増えている。

ICT 支援員については令和2年度に配置し、コロナ禍における学びを保障するための ICT を活用した学習方法の変化を支えた。現在は、教師自身がより主体的に情報活用指導能力を高めるために、ICT 支援員が配置されていないが、導入ソフト等の年次更新作業など、必要性が高まっている。

(2) 個別最適で協働的な学びの一体的な充実に向けた目標

令和6年度の全国学力学習状況調査結果では、ICT 活用する学習効果について約9割の児童生徒が肯定的な回答をし、全国や県と比べて高い数値を示した。一方、活用

機会については小中学生ともに十分な結果は得られなかった。小学6年生、中学3年生の結果ではあるが、他学年においても同様、もしくはそれより少ない結果が想定されるため、今後は、デジタル教科書やデジタルドリルを活用した授業改善や日常利用の研修を計画し、ICT活用機会をさらに高め、より多くの児童生徒がICTを活用した学習効果を実感でき、自ら活用機会を増やしていけるこどもたちを育てていきたい。

(3) 学びの保障に向けた目標

2(1)において記したとおり、1人1台端末のデジタル教材機能やリモート機能、クラウド環境等を活用し、不登校児童生徒や外国人児童生徒、特別な支援を要する児童生徒等、多様なこどもたちのニーズに合わせたり、災害等非常時の状況に対応したりでき、誰一人取り残すことのない学びの保障を実現したい。また、令和6年度から「心の健康観察」アプリを導入し、こどもたちがSOSを発信できる環境を整えた。即時的かつ定期的な活用を進めながら、こどもたちのSOSを早期発見し、組織的に対応できる安全・安心な学校づくりを実現したい。

参照資料

- ・富士宮市教育委員会「第2期富士宮市教育情報化推進基本計画」
- ・富士宮市教育委員会「教育情報化推進基本計画の検証」R3～R5
- ・富士宮市教育委員会「確かな学力が育つ授業」第30集、第29集、第28集
- ・文部科学省「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」令和3年3月
- ・文部科学省「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会論点整理」令和6年9月